



『つくし工房工歌』完成までの歩み

「つくし工房には校歌みたいなものはないんですか？……」作業中の出来事でした。とあるメンバーがこう発したのです。それに対して「……そういうじゃないね」

数日後、一通の手紙がその後のメンバーの運命を変えるかのように舞い込んだのです。差出人は“虹のメッセージ（以降「虹メ」）実行委員会”で、作詞募集の知らせでした。

虹メの案内をメンバーに知らせたのはミーティングの時です。「この間、工房の歌がないって話が出たよね？　そこで……」届いた手紙の内容に添って話題を振ってみたところ、メンバーは乗り気な様子です。その日の話し合いの結果、実際に曲がつくかはわかりませんが、皆で協力して詞を作ってみようということになりました。

翌週から一丁前に作詞活動に入りました。とりあえず“つくし”“つくしの里”といった言葉からイメージされる語句や文章をいろいろ挙げ、それらを並び変えて詞にしてみようと考えました。

詞を作っていく上で難しかったのは、例えば「つくしのさとは ゆきのなか……」といったふうに、文字数を工夫しなければならないということでした。そんな訳で、この工歌は七五調にしてみました（とはいっても、もう作り終えているので変更はできませんけど）七五調にしたばかりに、せっか

くの詞が変になっては意味がないので、作詞活動にもかなりの時間を費やしたのです。

つくしといえば季節はやっぱり「春」、そこで春が持つとても良い雰囲気を強調するために、冬から春へ移行していく情景を思い浮かべました。また、つくし工房やつくしの里はこんな所において、私達は毎日頑張っているんだということもアピールしつつ、とうとう完成に漕ぎ着けたのです。

応募してからどれくらいの日が流れたでしょう？　「つくし工房工歌がコンサートで歌われることになりました」という一本の電話があったのです。すぐにメンバーに報告に行くと皆の目にはうっすら涙が……、これは冗談ですが、皆喜んでいました。

それからさらに数日後、虹メの実行委員さん5名が、つくし工房工歌という“曲”とギターを片手に持って、一緒に練習するべく来て下さいました。ギターから奏でられる音色と、皆さんの歌声を聞いた瞬間、その時の背筋がゾクゾクとして感覚を忘れることはできないでしょう。また、皆でやればできるし、やって良かったと感じました。

これを読んでいる皆さんには、機会があったら是非この曲を聞いてみてもらいたいと思います。つくし工房のメンバーが皆、工房やつくしの里で、夢や希望を持って毎日頑張っているんだということ、この曲で是非知ってほしいのです。

つくし工房工歌

作詞 つくしメンバーズ
作曲 中戸 亮一

1 つくしの里は雪の中 春の芽生えが近づいた
大地を割って顔出した 春を知らせるつくしんぼ
つくしはまるで天高く 夢を見つづけ伸びてゆく
それがわれら つくし つくし（つくし）工房
それがわれら つくし つくし（つくし）工房

2 「春が来たよ!!」とつくしんぼ 小筆のように揺れている
楽しい職場いきいきと すくすく育つつくし連
夢と希望を抱きつつ 巣立つ姿を見つづける
あわれら つくし つくし（つくし）工房
あわれら つくし つくし（つくし）工房